

血液ガス分析装置システム管理ソフトウェア Radiance の使用経験

東海大学医学部付属八王子病院麻酔科
東海大学医学部外科学系麻酔科学部門*
伊藤浩子、國吉昌史、三浦正明、西山純一*、福山東雄*、鈴木利保*

近年、医療用各種測定機器のデータを院内でオンライン化する技術が進歩し、従来に比べ患者データの簡便な参照、正確な記録が迅速にできるようになってきた。しかしその管理ソフトウェアの多くは病院独自のカスタマイズまで行うと高額となり、低価格で機器のメンテナンスまでをカバーするものは少ないのが現状である。今回我々はラジオメーター社製血液ガス分析装置管理ソフトウェア Radiance を使用したので報告する。

Radianceはパーソナルコンピュータベースのソフトウェアで、院内LANを介してラジオメーター社製血液ガス分析装置 ABL700シリーズと接続することで、各種データならびに装置のリモートメンテナンスを行えるソフトウェアである。1) 価格は263万円と低額で、カスタマイズ等のオプションを含んだ導入費用は ABL 1 台接続で約295万円である。我々の施設では、手術室内に設置した血液ガス分析装置 (ABL725) 1台で測定した血液ガスデータを、本ソフトウェアを使用して各手術室 (16室) および手術室受付・麻酔科医局に配置した日本光電工業社製麻酔患者データ管理システム (CAN-1500) に接続し、麻酔記録上の患者データと共に一括自動記録している。また同時に病院情報システム (富士通HIS) へ接続し、中央検査室側端末でのデータ参照や装置のリモート操作が可能である。これにより装置の精度管理溶液を中央検査室から測定でき、2) 測定結果に異常値が発生した場合など、それらの値が範囲内で安定しているかを確認できるので、キャリブレーション記録、メッセージ記録を参照し、測定結果が信頼できるか否かの判断が行える。病院情報システムへの接続は電子カルテ上への血液ガス分析データ表示を可能とし、医事会計のHISまで含めた血液ガス測定の取り扱いが大変簡略化され、大いに活用できるソフトウェアであると思われる。

血液ガス分析装置は24時間稼動することを前提とし、定期的メンテナンスおよび精度管理が非常に重要である。従来、メンテナンスには検査技師等が装置設置場所まで出向き作業を行う必要があったが、本ソフトウェアの導入により遠隔操作が可能となり、検査室内で装置の稼動状況を完全に把握できるようになった。またエラー発生時にも検査技師が本ソフトウェアより得られる情報を端末で見ながら、現場に詳しいアドバイスをすることが可能となり、医療従事者の労働力を時間的に節約でき、有効に利用できている。

Radianceは血液ガス分析装置の管理に関して経済性、迅速性などの面で期待できるソフトウェアであると考えられる。

参考資料

- 1) Richard Frankland : RADIANCE : RADIOMETER ABL分析装置のリモートコントロール機能 Bulletin No.14-2000 : Code 918-612
- 2) Thomas Krarup : ABL700シリーズのオートチェックモジュール : 革新的なQCテクノロジー Bulletin No.12-2000 : Code 918-614

RADIANCE™

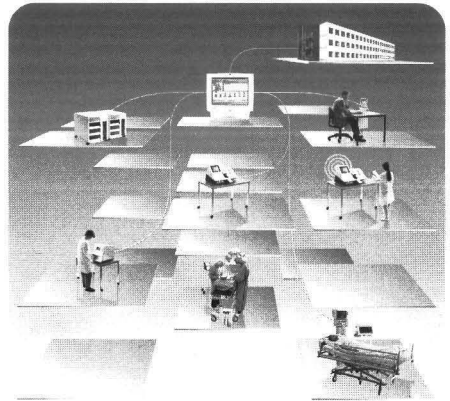
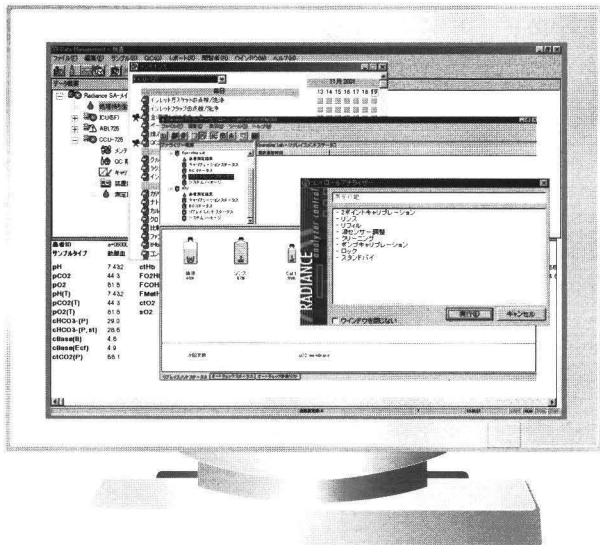
ラディアンズソフトウェア



血液ガス分析のラジオメーターより システム管理ソフト・ラディアンズ登場!

ラディアンズの特長

- ・ **アナライザーコントロールモジュール**
—離れた場所から血液ガス分析装置のリモートコントロールができます。
- ・ **データマネージメントモジュール**
—ラディアンズは病院内の複数のABLデータを管理します。
- ・ **セーブタイム**
—リモートコントロールで、大幅な作業時間の節約ができるので患者ケアに集中できます。



ラジオメーターレーディング株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋3丁目16番11号 西新橋東急ビル
☎ 03 (5777) 3500 (代)

営業所 東京 ☎ (03) 5777-3555 大阪 ☎ (06) 6350-2000
札幌 ☎ (011) 746-3390 高松 ☎ (087) 815-1551
仙台 ☎ (022) 268-3008 広島 ☎ (082) 568-6355
長野 ☎ (026) 223-6855 福岡 ☎ (092) 822-2135
金沢 ☎ (076) 231-4455 鹿児島 ☎ (099) 227-9383
名古屋 ☎ (052) 741-8211

RADIOMETER
COPENHAGEN